日本総研 リサーチ・アイ
The Japan Research Institute, Limited

No.2011-118
2011年12月12日
http://www.jri.co.jp

減少する米国小麦生産

～ 天候不順に、エタノール需要増に伴うコーン生産シフトが拍車 ～

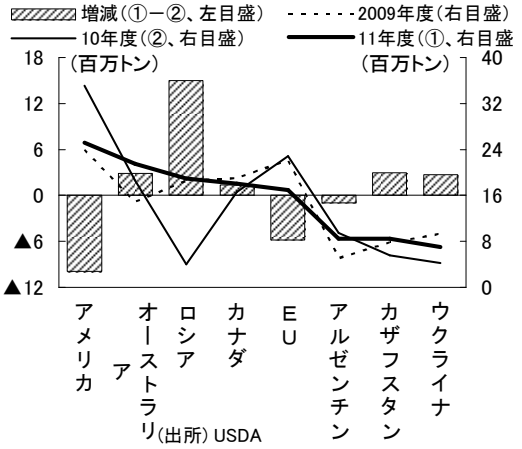
（１）米国は世界最大の小麦輸出国。しかし本年度の輸出量は2,517万トンと前年3,508万トンから▲991万トンと大幅減の見通し（図表１）。昨年泥炭火災で小麦禁輸に踏み切ったロシア、ウクライナが輸出再開したものの、深刻な降水不足に陥った欧州も輸出量が前年比▲585万トンと大幅に減少する結果、本年度、世界の小麦輸出は▲4百万トンの減少見通し。需給緩和に向かう公算が小さいなか、小麦価格は本年入り半ば以降、若干低下したものの、依然高水準。

（２）本来価格高止まりは農家の生産意欲を強める筋合い。しかし米国の小麦生産動向をみると、趨勢的に作付・収穫面積が減少するなか、これまで肥料多投与や品種改良、遺伝子組換品種の採用を通じて増加してきた単収がこのところ頭打ち（図表２）。本年度に即してみれば、天候不順の結果、単収が前年比減。その結果、生産量は2008年度の25億ブッシェルをピークに毎年減少し、本年度は19.99億ブッシェルと20億ブッシェルを割り込む見通し。

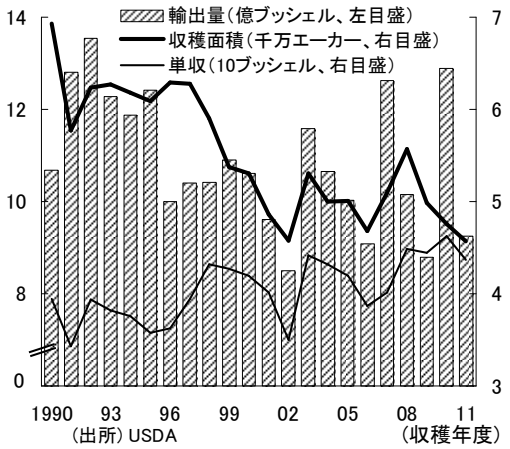
（３）小麦生産への意欲減退はエタノール需要増大に伴うコーン価格上昇が主因の一つ（図表３）。従来、小麦価格はコーンを1トン当たり40～60ドル上回って推移。しかし近年、価格差が次第に縮小し、コーン生産の魅力が増大。小麦とコーンの両方を生産が可能なエリアで小麦生産をコーン生産に切り替える動きが拡大。

（４）米国コーン生産について用途別植付面積をみると、2000年代半ば以降、飼料用が減少し、エタノール用が急速に増大するなか、総作付面積が趨勢的に増加（図表４）。今秋からガソリン価格が下落。12月5日は1ガロン当たり3.29ドルまで低下しエタノール価格も低下傾向。しかし、原油価格はWTIベースで10月4日の1バレル当たり75.4ドルを底に再び上昇。11月末以降、同100ドル台に。以上を要すれば、米国小麦生産増による世界需給緩和は当面期待薄。

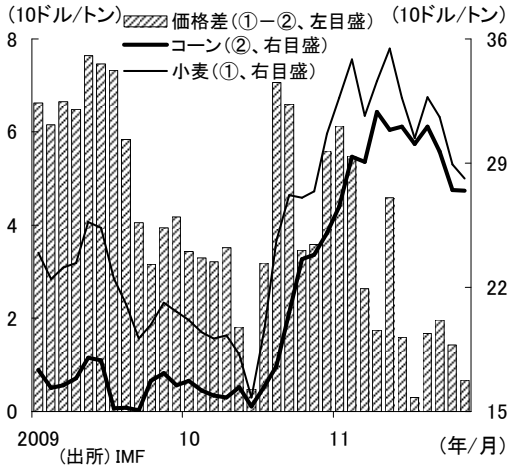
（図表1）主要小麦輸出国の輸出量見通し



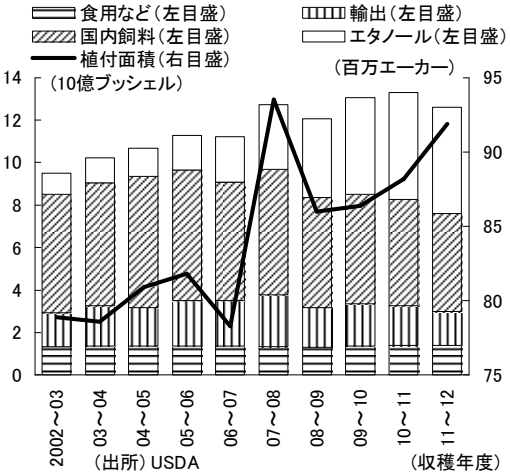
（図表2）米国小麦の単収と収穫面積、輸出量



（図表3）小麦価格とコーン価格



（図表4）米国コーンの用途別植付面積



《ご照会先》日本総研調査部　藤 井（fujii.hidehiko@jri.co.jp、03-3288-4615）